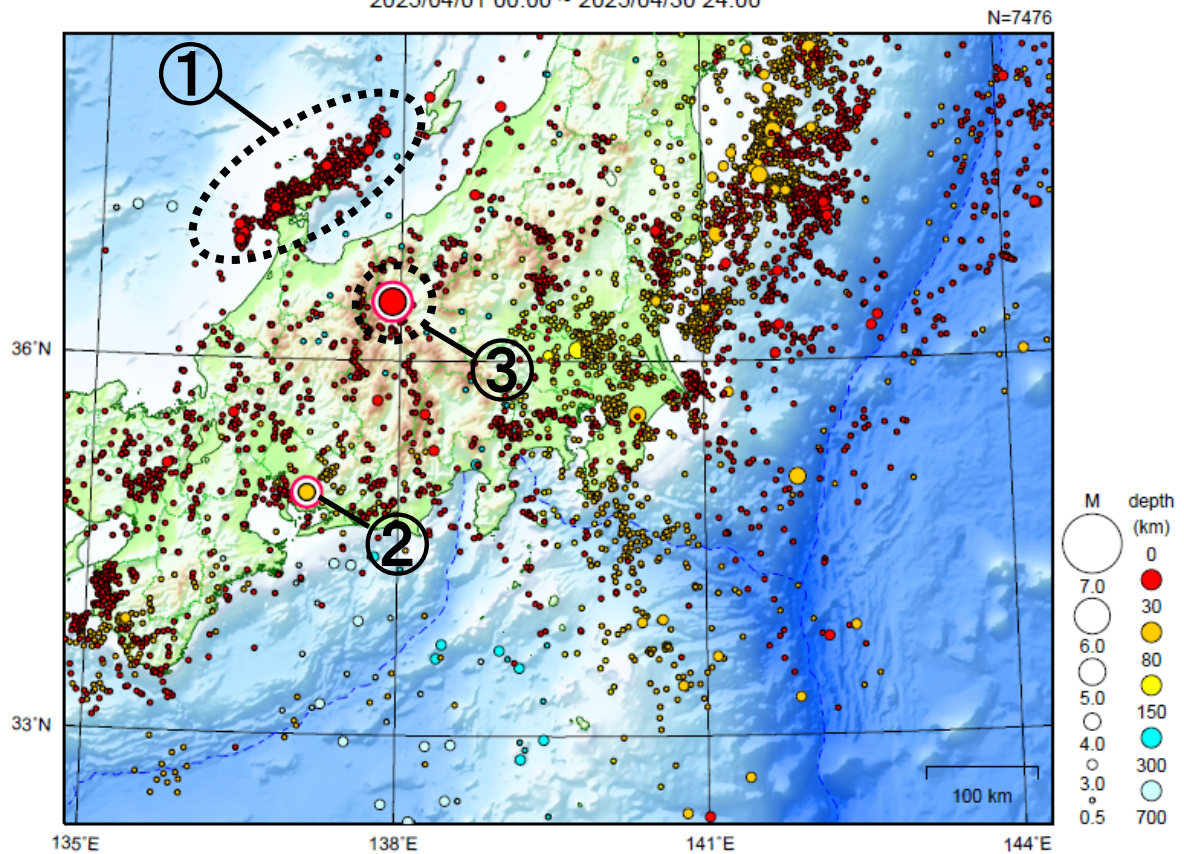


関東・中部地方

2025/04/01 00:00 ~ 2025/04/30 24:00



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

- ① 「令和6年能登半島地震」の地震活動域では、4月中に震度1以上を観測した地震が12回（震度2：2回、震度1：10回）発生した。このうち最大規模の地震は15日に発生したM3.9の地震（最大震度1）である。
- ② 4月8日に愛知県西部でM4.6の地震（最大震度3）が発生した。
- ③ 4月18日20時19分に長野県北部でM5.1の地震（最大震度5弱）が、同日の23時39分にはM4.5の地震（最大震度4）が、19日にはM4.3の地震（最大震度4）が発生した。長野県北部では、18日から30日までに震度1以上を観測した地震が65回（震度5弱：1回、震度4：2回、震度3：3回、震度2：13回、震度1：46回）発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

「令和6年能登半島地震」の地震活動

震央分布図

(2020年12月1日～2025年4月30日、
深さ0～30km、 $M \geq 3.0$)

震源のプロット

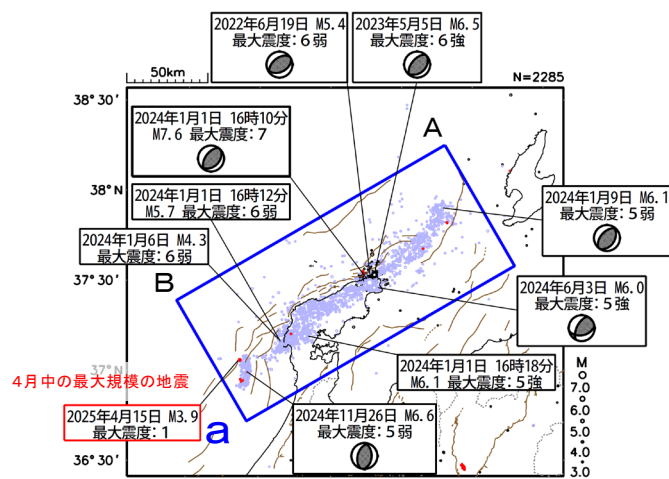
黒色 2020年12月1日～2023年12月31日

水色 2024年1月1日～2025年3月31日

赤色 2025年4月1日～30日

吹き出しは最大震度6弱以上の地震、 $M6.0$ 以上の地震
及び4月中の最大規模の地震

図中の発震機構はCMT解



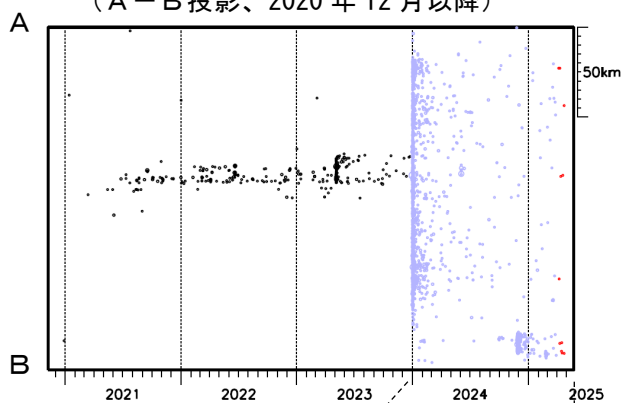
図中の茶色の線は、地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示す。

能登半島では2020年12月から地震活動が活発になっており、2023年5月5日には $M6.5$ の地震（最大震度6強）が発生していた。2023年12月までの活動域は、能登半島北東部の概ね30km四方の範囲であった。

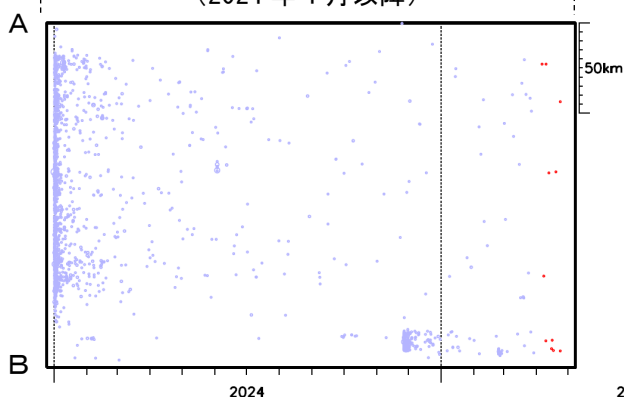
2024年1月1日16時10分に石川県能登地方の深さ16kmで $M7.6$ の地震（最大震度7）が発生した後、地震活動はさらに活発になり、活動域は、能登半島及びその北東側の海域を中心とする北東－南西に延びる150km程度の範囲に広がっている。

地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的に緩やかに減少してきているが、 $M7.6$ の地震後の地震活動域の西端の石川県西方沖で、2024年11月26日に $M6.6$ の地震（最大震度5弱）が発生し、4月中に震度1以上を観測した地震が12回（このうち、石川県西方沖の $M6.6$ の地震活動域で6回）発生するなど活発な状態が続いている。なお、4月中の最大規模の地震は、15日22時14分に石川県西方沖の深さ11kmで発生した $M3.9$ の地震（最大震度1）である。

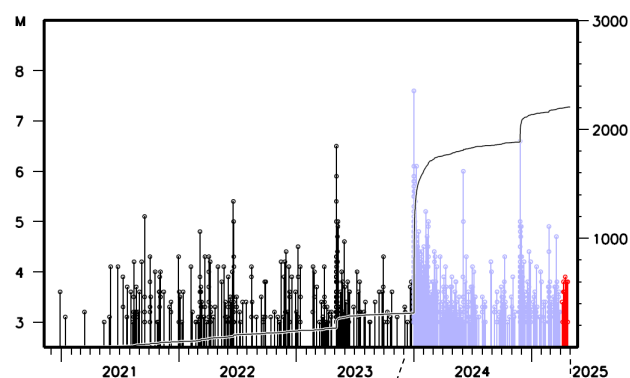
領域a内の時空間分布図 (A-B投影、2020年12月以降)



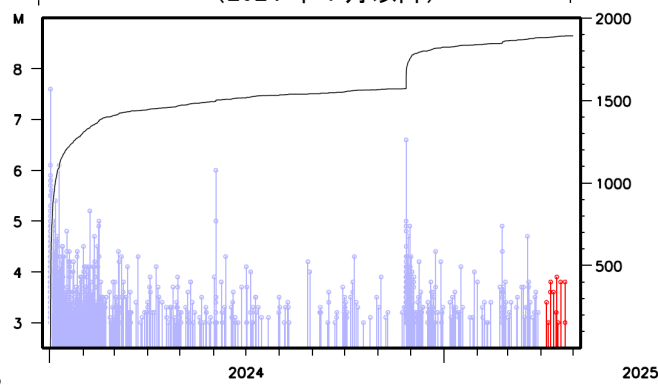
(2024年1月以降)

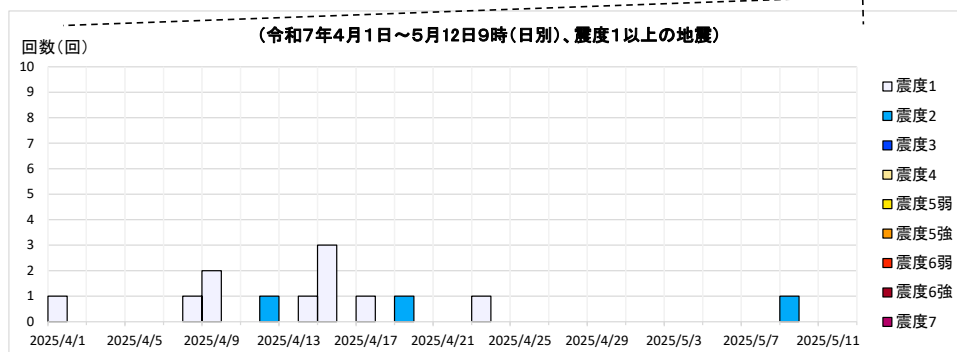
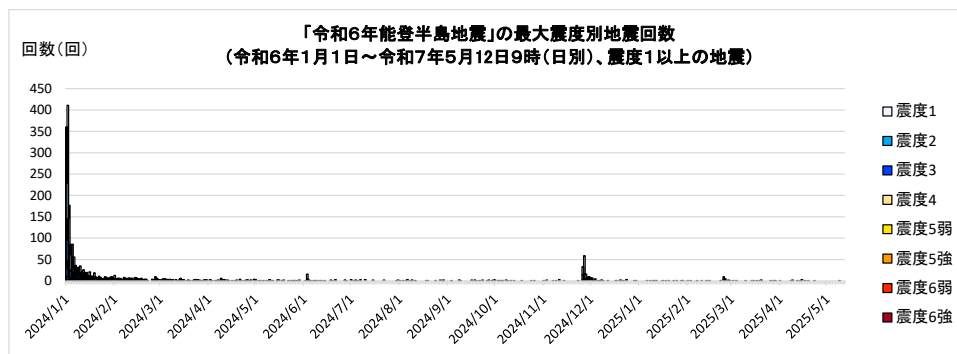


領域a内のM-T図及び回数積算図 (2020年12月以降)

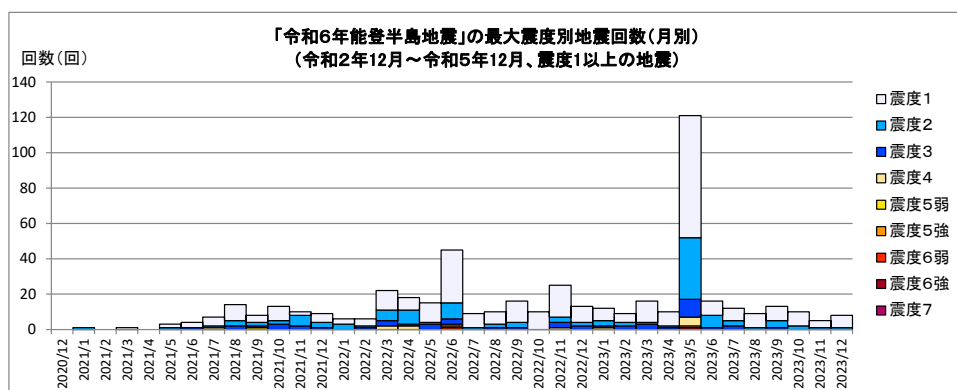


(2024年1月以降)





【令和2(2020)年12月～令和5(2023)年12月の発生回数(月別)】



【令和2(2020)年12月以降の発生回数(年別)】

年別	最大震度別回数										震度1以上を 観測した回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計		
2020/12/1 - 12/31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2023/6/1～ 12/31の震度 1以上を観測した 回数 合計73回 月平均10.4回 月中央値10.0回
2021/1/1 - 12/31	39	19	10	1	1	0	0	0	0	0	70	70	
2022/1/1 - 12/31	130	39	18	6	0	1	1	0	0	195	265		
2023/1/1 - 12/31	151	61	21	6	0	1	0	1	0	241	506		
総計(2020～2023)	320	119	49	13	1	2	1	1	0		506		

2020～2023	320	119	49	13	1	2	1	1	0	506	506	
2024/1/1 - 31	941	395	159	45	7	8	2	0	1	1558	2064	
2024/2/1 - 29	95	34	12	3	0	0	0	0	0	144	2208	
2024/3/1 - 31	49	17	4	0	0	0	0	0	0	70	2278	
2024/4/1 - 30	32	9	4	0	0	0	0	0	0	45	2323	
2024/5/1 - 31	20	6	2	0	0	0	0	0	0	28	2351	
2024/6/1 - 30	27	5	1	1	0	1	0	0	0	35	2386	
2024/7/1 - 31	16	3	1	0	0	0	0	0	0	20	2406	
2024/8/1 - 31	13	4	1	0	0	0	0	0	0	18	2424	
2024/9/1 - 30	14	4	0	0	0	0	0	0	0	18	2442	
2024/10/1 - 31	8	6	0	0	0	0	0	0	0	14	2456	
2024/11/1 - 30	88	41	5	1	1	0	0	0	0	136	2592	
2024/12/1 - 31	24	12	1	0	0	0	0	0	0	37	2629	
2025/1/1 - 31	8	2	2	0	0	0	0	0	0	12	2641	
2025/2/1 - 28	18	5	2	0	0	0	0	0	0	25	2666	
2025/3/1 - 31	7	3	1	1	0	0	0	0	0	12	2678	
2025/4/1 - 30	10	2	0	0	0	0	0	0	0	12	2690	
2025/5/1 - 5/12	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2691	5/12 09時時点
総計(2020/12/1～2025/5/12)	1690	668	244	64	9	11	3	1	1		2691	

※2024/1/1以降は地震活動の領域が広がったことから、対象領域を拡大して地震回数をカウントしている。

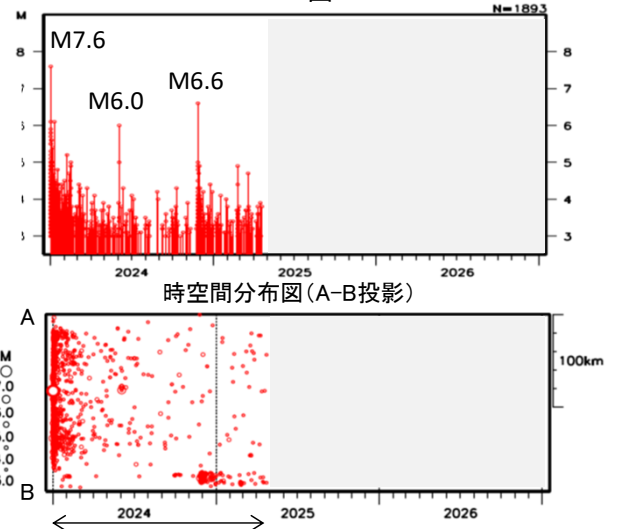
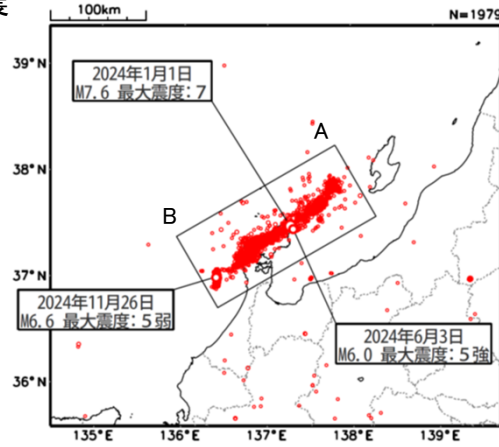
陸のプレート内で発生した過去の大地震との活動比較(36か月間)

M-T図

2024. 1. 1- M $\geq$ 3.0

令和6年能登半島地震

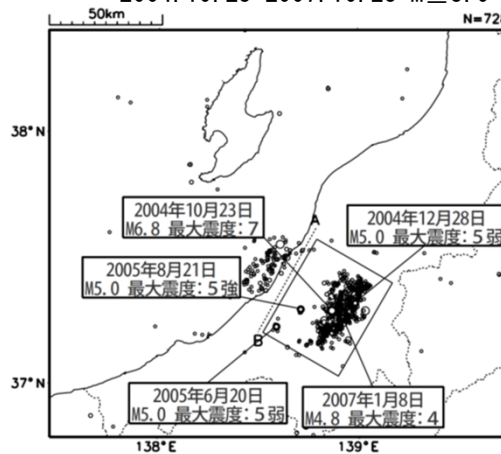
(M7.6, 最大震度7)



2004. 10. 23-2007. 10. 23 M $\geq$ 3.0

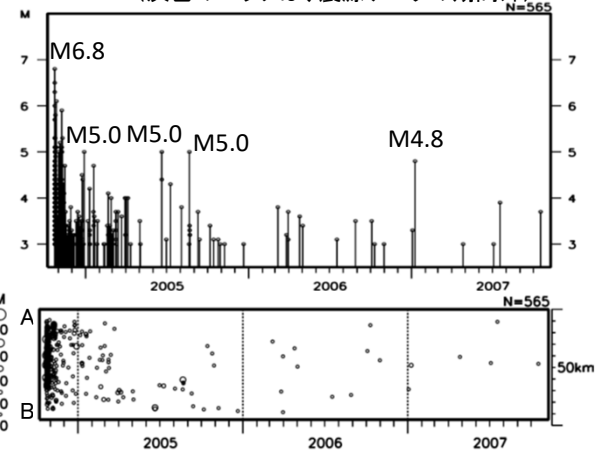
平成16年(2004年)
新潟県中越地震

(M6.8, 最大震度7)



2024年1月1日~2025年4月30日

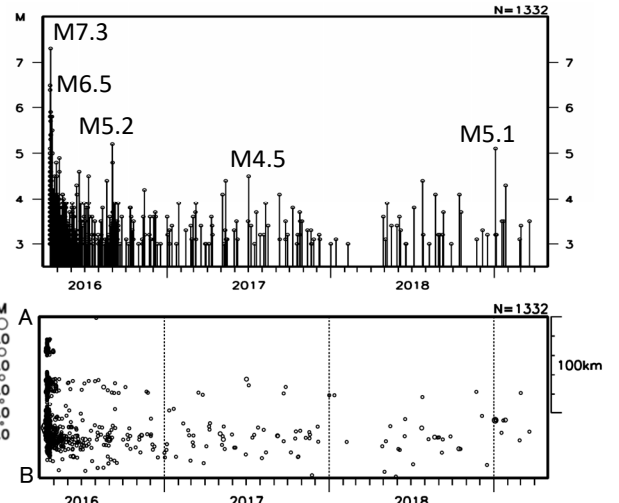
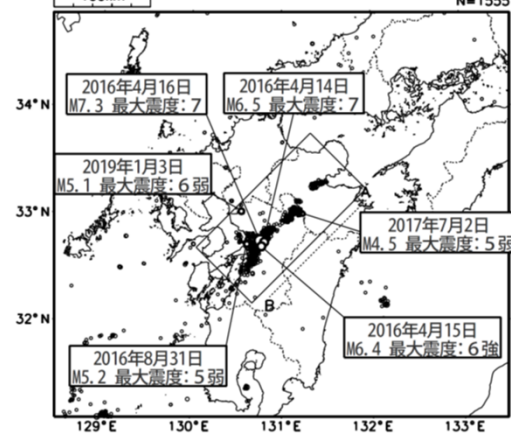
(灰色のハッチは、震源データの期間外)



2016. 4. 14-2019. 4. 14 M $\geq$ 3.0

平成28年(2016年)
熊本地震

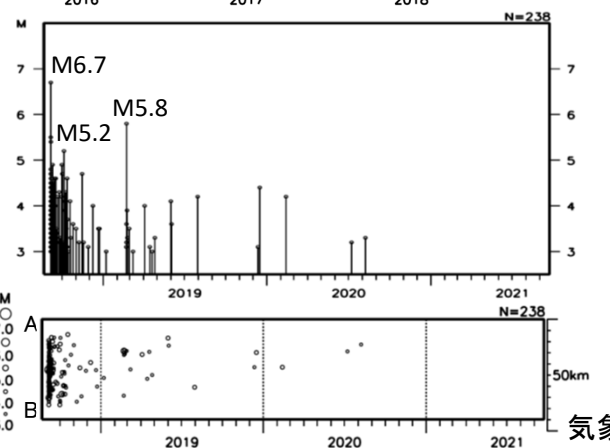
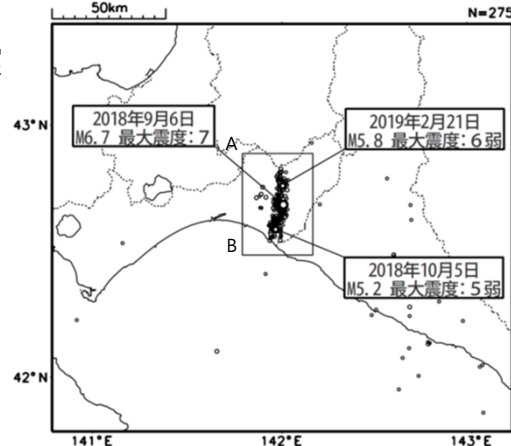
(M6.5, 最大震度7,
M7.3, 最大震度7)



2018. 9. 6-2021. 9. 6 M $\geq$ 3.0

平成30年
北海道胆振東部地震

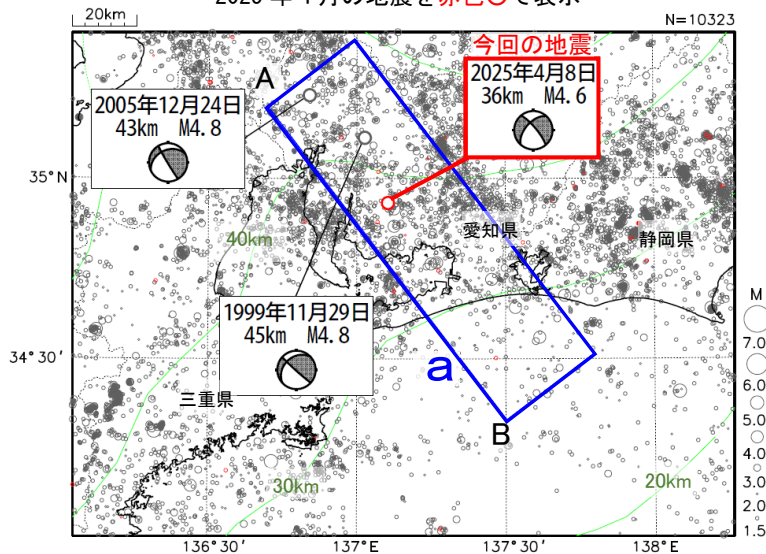
(M6.7, 最大震度7)



気象庁作成

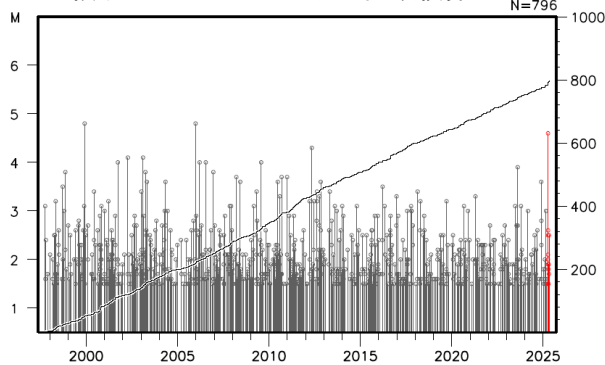
4月8日 愛知県西部の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2025年4月30日
深さ0～60km、 $M \geq 1.5$)
2025年4月の地震を赤色○で表示

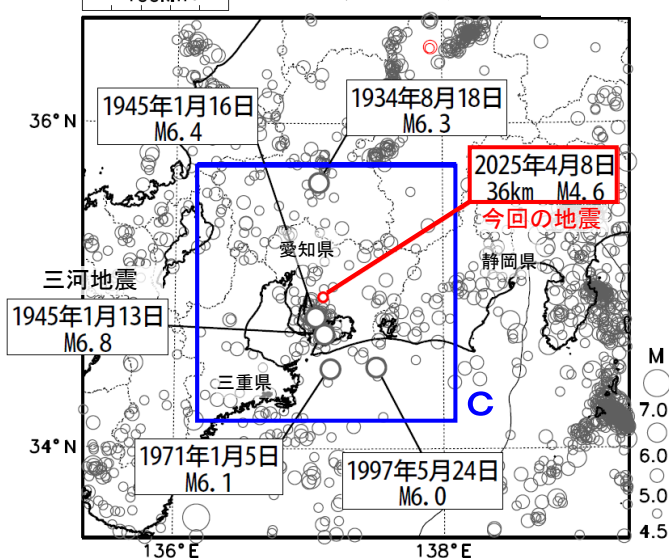


緑色の線はBaba et al. (2002)、Hirose et al. (2008)、Nakajima and Hasegawa (2007)によるフィリピン海プレート上面のおおよその深さを示す。

領域b内のM-T図及び回数積算図



震央分布図
(1919年1月1日～2025年4月30日、
深さ0～60km、 $M \geq 4.5$)

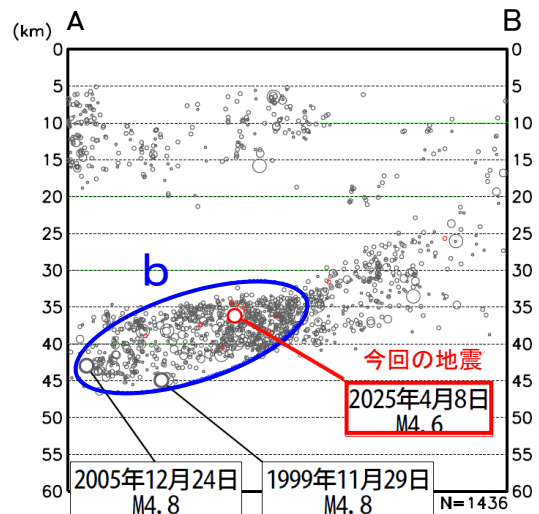


2025年4月8日19時26分に愛知県西部の深さ36kmで $M 4.6$ の地震 (最大震度3) が発生した。この地震は、発震機構が東西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した。

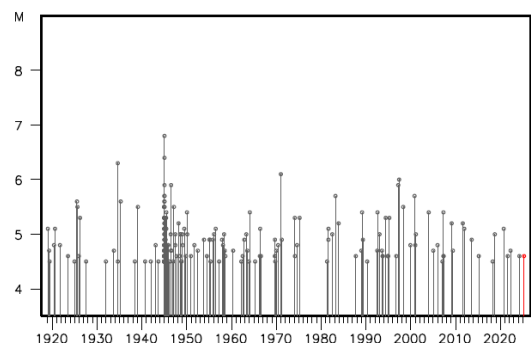
1997年以降の活動をみると、今回の震源付近 (領域b) では、 $M 4.5$ 以上の地震が今回の地震を含めて3回発生している。1999年11月29日には $M 4.8$ の地震 (最大震度4) が、2005年12月24日には $M 4.8$ の地震 (最大震度4) が発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の震央付近 (領域c) では $M 6$ 程度の地震が時々発生している。1945年1月13日には $M 6.8$ の地震 (三河地震) が発生し、死者1,961人、重傷896人、住家全壊5,539棟などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

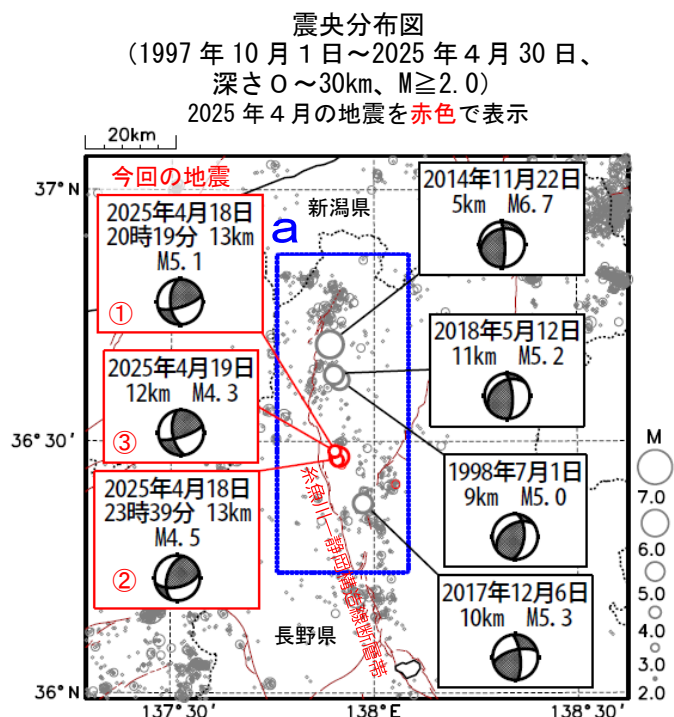
領域a内の断面図 (A-B投影)



領域c内のM-T図



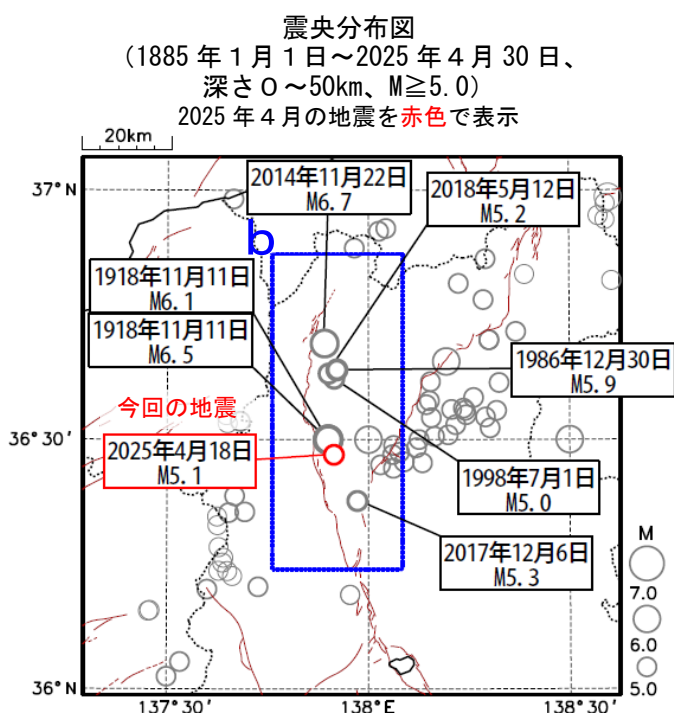
4月18日 長野県北部の地震



2025年4月18日20時19分に長野県北部の深さ13kmでM5.1の地震（最大震度5弱、図中①）が、同日の23時39分にはほぼ同じ場所の深さ13kmでM4.5の地震（最大震度4、図中②）が、19日にはほぼ同じ場所の深さ12kmでM4.3の地震（最大震度4、図中③）が発生した。これらの地震は地殻内で発生した。発震機構は、①と③は北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、②は北西－南東方向に圧力軸を持つ型である。これらの地震の震央付近では、①の地震が発生する前から地震活動がみられ、4月18日から30日までに震度1以上を観測した地震が65回（震度5弱：1回、震度4：2回、震度3：3回、震度2：13回、震度1：46回）発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域a）では、M5.0以上の地震が時々発生している。2014年11月22日にはM6.7の地震（最大震度6弱）が発生し、負傷者46人などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

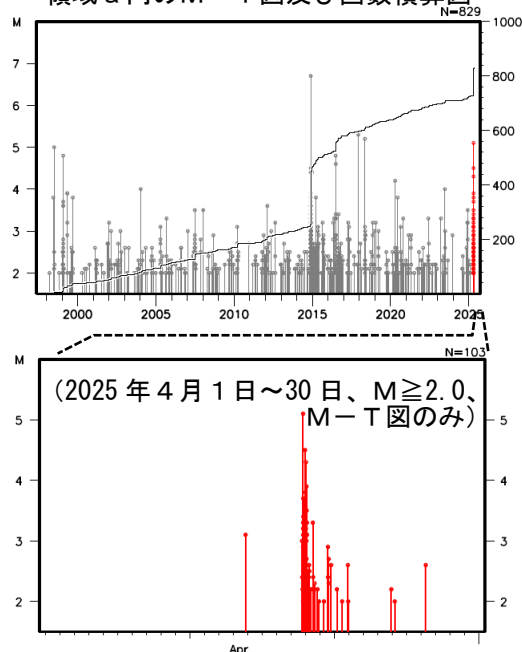
1885年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M5.0以上の地震が時々発生している。このうち、1918年11月11日にはM6.1とM6.5の地震が発生し、家屋全倒6棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。



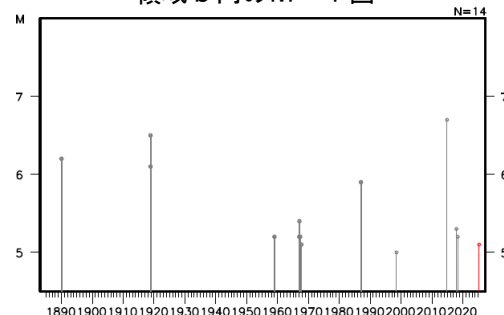
図中の茶色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

（震源要素は、1885年～1918年は茅野・宇津（2001）、宇津（1982, 1985）による※）

領域a内のM-T図及び回数積算図



領域b内のM-T図



※宇津徳治（1982）：日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表：1885年～1980年、震研彙報、56、401-463。

宇津徳治（1985）：日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表：1885年～1980年（訂正と追加）、震研彙報、60、639-642。

茅野一郎・宇津徳治（2001）：日本の主な地震の表、「地震の事典」第2版、朝倉書店、657pp。

気象庁作成